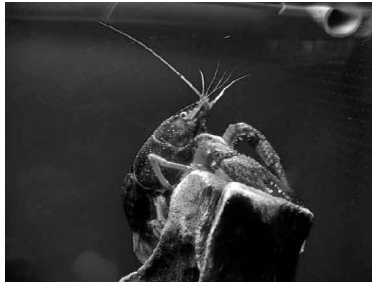


十数年前、私がまだ小学生だったころは、友人とよくザリガニ釣りに出掛けました。ザリガニは、つかまえようとすると、ハサミを振りかざして必死に抵抗します。水族館で人気の赤色の大型ザリガニ「まっかちゃん」も、触ろうとすると、ハサミを振りかざして抵抗します。こちら「はさまれたくない」と必死です。



大きなハサミをもったオスの大型ザリガニ「まっかちゃん」は子供たちの人気者

今思うと、ザリガニをうまくつかめたり、はさまれて痛い思いをしたりするその瞬間は、命と命の駆け引きや対話であり、ザリガニにも命があることが、感覚的にわかる瞬間だったと思います。ザリガニがはさみで必死に抵抗するのは、彼らが「死にたくない」と思っている何よりの証拠ではないでしょうか。

また、私たちは一匹釣ると、そ

のザリガニを餌にして次のザリガニを釣りました。この時、子供ながらに誰もが「残酷だな」という思いを抱いたものです。

子供のころ、このような生き物から教わった「命」の実感は、後に、人や生き物に対する「やさしさの気持ち」につながります。生き物は大切な宝物。そして、「命ってなんだろう」ということを、子供に教えてくれる先生でもあります。

皆さんも、身近な海辺や水辺に目を向けて、ちいさな生き物たちと遊んでみませんか。意外な発見や驚きがありますよ。

気軽に写真を楽しもう

蒲郡市博物館
68 1881
学芸員 小田美紀

大学時代、私は下宿生活をしていました。在学生の9割以上が遠隔地出身者でしたので、長期休暇を利用して、私や友人たちは、お互いの出身地を訪ねる旅を楽しんでいました。

その「ふるさと探訪・蒲郡編」は、来蒲記念にとせがむ友人と共に、蒲郡駅南口で写した気恥ずか

しい記念写真からスタート。時間帯が合わず竹島での潮干狩りはできませんでしたが、しきりに景色に感激する友人たちと遊歩道を一巡りし、続いてファンタジー館を訪れました。夜は三谷温泉で活け造りに舌鼓を打ち、翌朝早く、それぞれ実家に帰る友人を三河三谷駅で見送りました。

あれから早、十数年。当時、何気なく友人たちと写した写真は、学生時代の春の日の出来事と共に、今はなくなってしまう名鉄蒲郡駅ビルの姿を、まざまざと思い出させてくれます。



今はなくなってしまった名鉄蒲郡駅ビルの様子がわかる「名鉄蒲郡駅ビルオープン記念乗車券」

写真は記録であると同時に思い出の再生装置でもあります。先日まで博物館で開催していた「蒲郡

の表情50年」展でも、すでに失われた風景の写真が、自分の人生のワンシーンを思い出させてくれました。

身近でありながら意外と撮ることの少ないふるさと風景。誕生日などのちょっとした記念日に、親しい人と一緒に近所で写真を撮ってみてはいかがでしょう。いつかその写真が、忘れていた楽しい思い出や失われた風景を呼び覚ます、あなたの大切な1枚となるかもしれません。

お知らせ

メールマガジン「がまごおりミュージアム通信」配信スタート！

科学館・水族館・博物館から、蒲郡のとおきをご紹介します。蒲郡にまつわるトピックスのほか、三館のイベント情報、折々の見どころや展示紹介などを、ほぼ月1回メールでお届けします。

<http://www.nrc.gamagori.aichi.jp/3kan/index.html>からご登録ください。配信は無料です。